

平成 29 年 4 月 26 日

報道関係各位

東京都港区赤坂 1-11-44
株式会社 QLife (キューライフ)

ドライアイ、ドライマウス、関節痛など症状が多岐にわたるシェーグレン症候群
患者の 8 割以上「日常生活に影響あり」、診断で「治療に前向きになれた」40%
～シェーグレン症候群に関する患者実態調査～

月 600 万人が利用する日本最大級の病院検索・医薬品検索・医療情報サイト群ならびに医療者向けサービスを運営する株式会社 QLife (キューライフ/本社:東京都港区、代表取締役:有瀬和徳) は、キッセイ薬品工業株式会社のスポンサーのもと、シェーグレン症候群の患者 100 名を対象に、症状が日常生活に与える影響や、医療機関受診の状況などの実態調査を実施した。調査はインターネットによる回答で 3 月 4～7 日にかけて行われた。

調査結果は http://www.qlife.co.jp/news/170426qlife_research.pdf からダウンロード可能。

シェーグレン症候群は、40～70 代の女性に多い自己免疫疾患。患者数は 50 万人以上いるとも推定されている。代表的な症状にドライマウスやドライアイがあるが、その他にも関節痛や疲れやすさなど症状は多岐にわたる。ドライマウスになると、味覚障害や睡眠障害などの生活の質に大きな影響を及ぼす。シェーグレン症候群には根本的な治療法がないため、症状をやわらげるための対症療法が基本で、ドライマウスには、唾液の分泌を促す薬をはじめ、水分補給や人工唾液スプレー、ジェル、軟膏などが使われる。ドライアイには、涙の補充や、安定化させるための目薬や、涙の蒸発を防ぐカバー付き眼鏡の着用、目頭にある涙の排出口である涙点を小さな栓でふさぐ(涙点プラグ)といった治療などが行われる。

今回の調査結果から、以下のことが分かった。

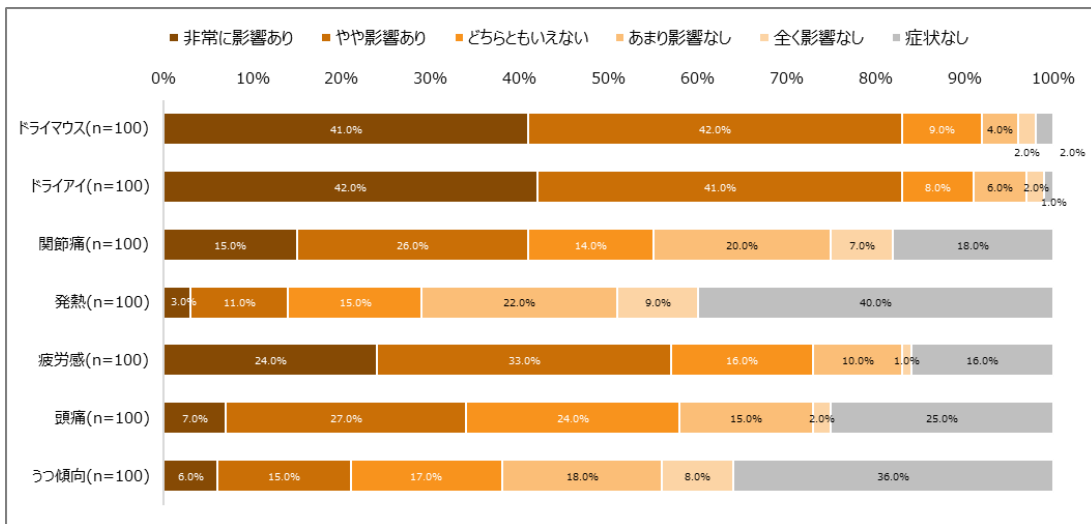
- ・患者の 99%に「ドライアイ」、98%に「ドライマウス」の症状。両症状とも 8 割以上の患者が日常生活に「影響あり」
- ・症状が出てから、シェーグレン症候群と診断されるまで平均 3.07 年、最長「44 年」も
- ・シェーグレン症候群治療のための平均年間通院回数 11.4 回
- ・患者の 40%が診断されたことで、病気と向き合う気持ち「前向きになれた」

この結果について、佐川昭リウマチクリニック院長の佐川昭先生は「シェーグレン症候群は早期発見・早期の治療開始で症状の悪化を抑えることが可能です。多様な症状が特徴のシェーグレン症候群ですが、今回の調査結果から、ドライアイとドライマウスはほぼ全ての方に起こっていました。少なくともこの 2 つの症状に悩んでいる方はかかりつけ医や受診先の医師にシェーグレン症候群の可能性を聞いて見ても良いかもしれません。」とコメント。早期発見、早期治療の重要性を訴えた。

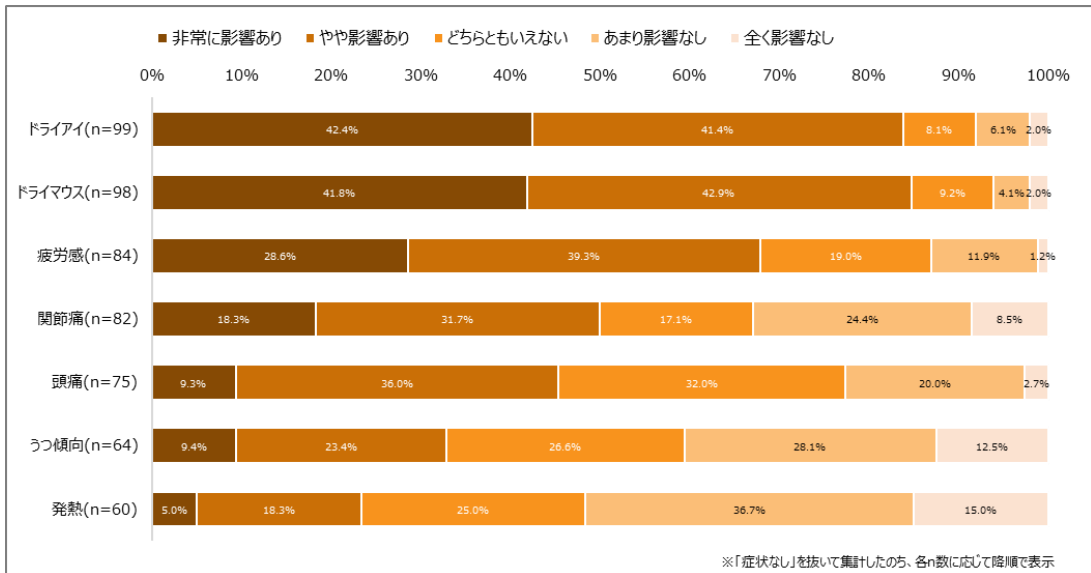
【調査結果詳細】

患者の99%に「ドライアイ」、98%に「ドライマウス」の症状。両症状とも8割以上の患者が日常生活に「影響あり」

疲労感は患者の84%に「症状あり」、そのうち67.9%「影響あり」。関節痛は患者の82%に「症状あり」、そのうち50%「影響あり」。今、一番改善したい症状「ドライアイ」33%、「ドライマウス」29%。

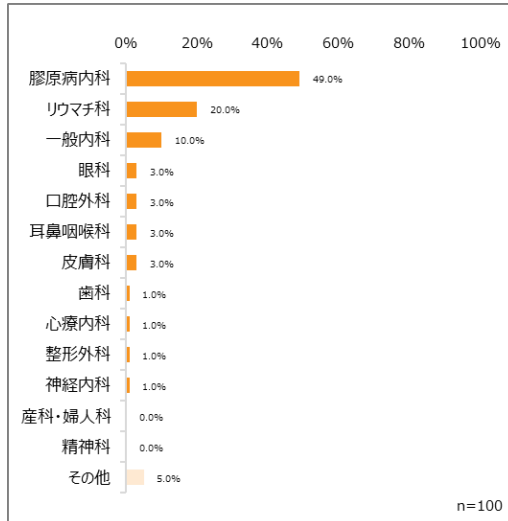
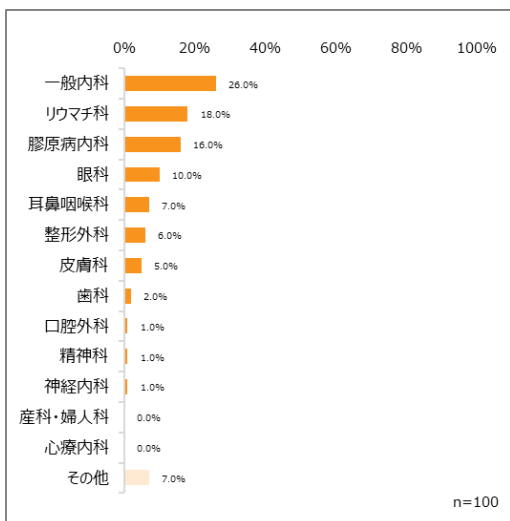
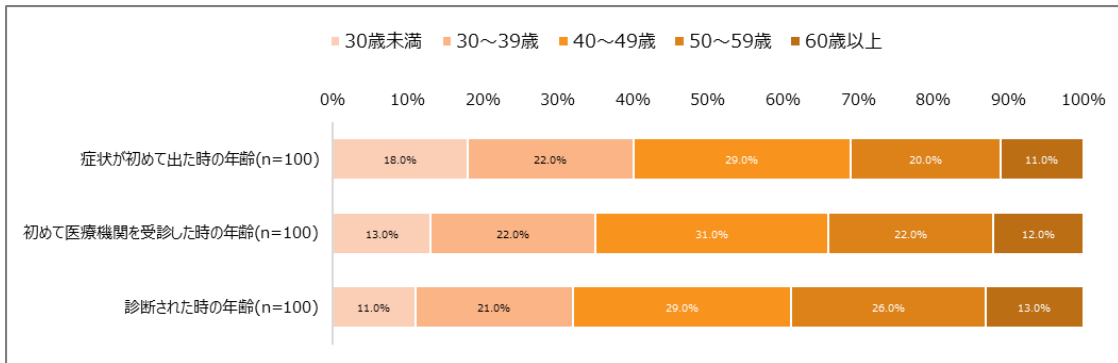


※「症状なし」を抜いて集計



症状が出てから、シェーグレン症候群と診断されるまで平均 3.07 年、最長「44 年」も

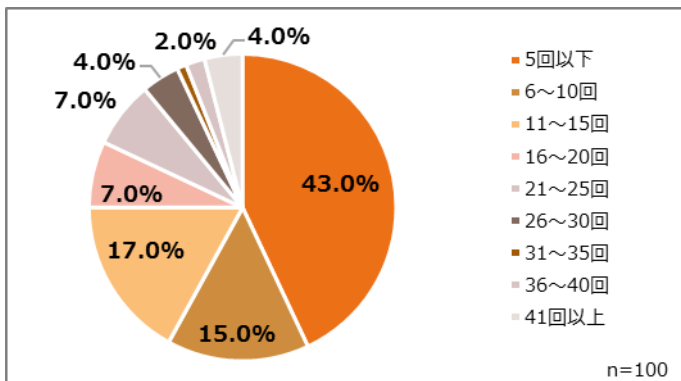
症状が出てから、初めて医療機関を受診するまでの期間、全患者の平均は 1.83 年。初めて医療機関を受診してから、シェーグレン症候群と診断されるまでの期間、全患者の平均は 1.24 年。最初に受診したのは「一般内科」「リウマチ科」が多く、シェーグレン症候群と診断されたのは「膠原病内科」「リウマチ科」が多かった。診断経緯には医療機関受診のほかに、健康診断やテレビ番組がきっかけになったケースも。



(左)最初に受診した診療科目 (右)シェーグレン症候群と診断された診療科目

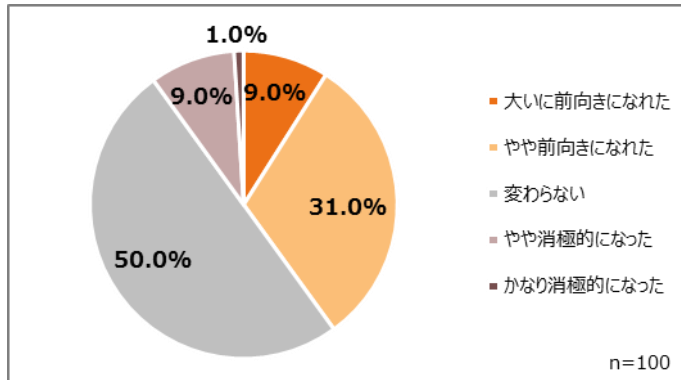
シェーグレン症候群治療のための平均年間通院回数 11.4 回

年間平均通院回数は 11.4 回であった。「5 回以下」が最も多く、43.0%だった。18.0%が 21 回以上通院していた。診療科目別には膠原病内科の年間平均通院回数は 7.1 回、眼科は 5.5 回、歯科は 13.5 回、口腔外科は 9.6 回だった。



患者の40%が診断されたことで、病気と向き合う気持ち「前向きになれた」

「大いに前向き」9%、「やや前向き」31%。「やや消極」「かなり消極」は10%。



【大いに前向きになれた】

- ・原因が特定できて薬が効いたら、仕事をしたり外出しても寝込まないようになったので。
- ・ドライアイのつらさに気が付いた。他に重度の自律神経失調症とか、起立性貧血とか、皮膚がヒリヒリ痛かったり、足の指が変形して指に力が入らず歩行困難になってきたので、治療に対し積極的にになって来た。
- ・長年「なまけ病」や「うつ病」「詐病」扱いされて嘘つき呼ばわりされてきたが、自分は正しかったとわかり安心した。

【やや前向きになれた】

- ・原因がわかったのでうまく付き合っていこうと思った。
- ・症状が比較的軽く、自分で対処できる範囲なので、頑張れるというか我慢できると思ったから。
- ・原因が分からないときは不安だったけど、原因が分かってからは向き合えるようになった。

【変わらない】

- ・対処療法でしかないし、乾きそのものが改善されるわけではないので。
- ・治らない病気で、原因もはっきり解明されていないので、あきらめのような気持ち。なってしまったものは、しょうがない。
- ・シェーグレンの症状よりも、関節痛のほうがひどいので。

【やや消極的になった】

- ・病名が判明したが、原因が不明で、根本的治療法がない事。対処療法でしのぐしかないが、目と口の渇きがひどく、仕事でも辛い。(家族も含め)誰にも相談できない事。
- ・上司に病気の事を理解して貰えず、通院で仕事に影響が出るから。病名増えただけで辛い気が重くなった。

【かなり消極的になった】

- ・治らない病気ががっかりした。



▼調査主体

株式会社 QLife(キューライフ)

▼実施概要

調査対象:シェーグレン症候群に罹患している女性

有効回収数:100人 調査方法:インターネット調査

調査時期:2017/3/4~2017/3/7

<株式会社 QLife の会社概要>

会社名: 株式会社 QLife(キューライフ)

所在地: 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-11-44 赤坂インターシティ 10F

代表者: 代表取締役 有瀬和徳 設立日: 2006年(平成18年)11月17日

事業内容: 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念: 医療と生活者の距離を縮める URL: <http://www qlife.co.jp>

本件に関するお問い合わせ先:

株式会社 QLife 広報担当 田中 TEL : 03-6685-2515/E-mail : info@qlife.co.jp